

令和2年度 都城市立富吉小学校 学校評価報告書（知育・徳育）

信頼される学校 児童の個性に応じた指導をとおり、確かな学力と豊かな人間性を身に付けさせ、ふるさと富吉を愛する児童を育成し、児童・保護者・地域に信頼される学校を創造する。

4段階評価 （ 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する ）

重点目標	具体的目標	具体的取組	アンケート結果と自己評価 (○：成果 ▲：課題 児：児童 保：保護者 地：地域 職：職員)		自己評価		学校運営協議会委員の評価・ご意見		最終結果		改善策
			項目	全体	項目	全体	項目	全体			
知育（「確かな学力」を育成する）	(1) 実態に応じた指導と確実な見届けを行い、「わかる・できる」授業づくりに努める。	○ICT機器の活用 ○学習過程の工夫	[アンケート結果] ○学校はわかりやすい授業を展開している。【児・保】 ○難しい問題に挑戦したり、できる喜びを授業で感じている。【児・保】 ▲最後までしっかりと人の話を聞く力に課題があり、理解の個人差も見られる【職】 [自己評価] 学級（児童）の実態に応じて、ICT機器（PC・TV・投影機等）の活用やワークシートの工夫を行い、全員が分かる授業を目指した。学習の振り返りの充実や繰り返しの学習により、定着率を80%以上に高めることができた。学力検査等の分析から苦手分野の解消に努めていきたい。	3	3	○いろいろな工夫をされた授業を楽しく受けている児童の姿がほほえましい。 ○ICT機器の活用や先生方の指導法が工夫されており「わかる・できる」授業に結びついている。学習の定着率が高かったのも先生方の努力の結果と考える。 ○教員全員が一丸となった研究授業や日々の授業の取組等で児童の意識が高まり、理解力も高まると思う。 ○今後益々ICT機器の活用が進むと考える。全ての子供達が学習をすることが楽しくなり、習得の基準が向上するような活用をしてもらいたい。	3.3	3.3	○計画的に聞く指導を行い、授業での集中力を高める。 ○ICT研修を充実し、教育効果の高い活用を図る。		
	(2) 家庭学習の内容を充実し、学習効果を高める。	○家庭学習ノートの掲示とがんばりカードの活用 ○家庭学習通信による啓発	[アンケート結果] ○家庭学習にしっかりと取り組んでいる。【児・職】 ▲家庭学習への工夫や積極的な主な取組に課題がある【保】 [自己評価] 家庭学習ノートの掲示やがんばりカードの活用、家庭学習通信「ぐんぐんだより」の発行など児童や保護者への呼びかけを行った。内容には差が見られるが、家庭学習には全員取り組んでいる。更なる家庭学習の充実のために、最も効果的な学級担任による日々の声掛けを継続し、一人一人にあった課題について考えていきたい。	2	3	○個人差はあると思うが、家庭学習に全員取り組むことはなかなか難しい。児童や保護者への呼びかけが効果を上げていく。今後の習慣化が大切だと思う。 ○家庭学習に消極的な子どもが、進んで取り組めるような工夫をについて検討してほしい。	3.0	3	○家庭学習の見える化に取り組む、意欲向上を図る。 ○個に応じた家庭学習の在り方について共通理解を図り、学習効果を高める。		
	(3) 読書環境を整備、読書の質の向上を図る。	○読書環境の整備 ○図書館サポーターとの連携	[アンケート結果] ○読書に興味を持ち本を読んでいる【職】 ○図書室やくれよん号の本を進んで借りている【児】 ▲学校では進んで読書をしているようだが、家庭との差が見られる。【保】 ▲読書量や貸し出しの利用は十分と言えない。【保】 [自己評価] 図書館サポーターとの連携や図書委員会の活動、読み聞かせボランティアの協力を通して、本と親しむ児童を育てることができた。図書室に足を運ぶ回数は確実に増えている。今後は現在の活動を継続し、家庭も巻き込んだ主な取組を行なうことで、一人一人にあった読書活動の推進に努めていきたい。	4	4	○学校では本を読んでいるのだろうが、家庭での読書については課題を感じる。まずは親が本を読んでいるところを見せる必要があると考える。 ○スマホのオンラインゲームが子供達の中で話題になってくると思うが、読書も大切であることを推進してもらいたい。 ○家での読書環境が気になる。ゲームに費やす時間が気になる。 ○読み聞かせボランティアの協力、学校の読書指導は大変良いと思う。今後は家庭での取組を推進すると向上につながると思う。	3.6	3.6	○図書館サポーターや読み聞かせボランティア、市図書館との連携を図り、児童が「読みたい」と思う活動を計画し、意欲の向上を図る。		
徳育（「豊かな心」を育成する）	(1) 規範意識を高め、望ましい生活習慣を身に付けさせる。	○生活のきまりの提示と指導 ○あいさつ指導	[アンケート結果] ○学校のきまりをよく守り、安全な登下校と落ち着いた生活を送っている。【児・保・地・職】 ○地域でのあいさつが進んできている【児・保・地】 ▲言葉遣いや家庭での生活のリズムに関して課題がある。【保・職】 [自己評価] 正しい行動を称賛する具体的指導と学校としての望ましい生活習慣の基準の明確化を行った。児童の規範意識を高めることができた。全児童が、大きな問題行動等もなく落ち着いた学校生活を送ることができた。校内での指導が校外での行動につながるよう、心に訴えかける指導を継続して行っていきたい。	3	3	○大きな声のあいさつや帰宅時間の厳守ができていく事は大変良い。 ○大人に対するあいさつはとても良いが、中学生も含め高学年になるにつれて声が小さくなる事が気になる。 ○あいさつをすることは、お互いに一日を楽しく過ごす気持ちを高める大切なコミュニケーションの手段と考える。今後もあいさつの励行について力を入れてほしい。	3.1	3.1	○言葉遣いに関する課題を明確にし、時と場に応じて適切な言葉を選ぶ力を育てる。 ○家庭との連携を図り、正しい生活習慣の指導を行う。 ○中学校と連携し、あいさつ運動を展開する。		
	(2) 児童理解を深め、好ましい人間関係を築かせる。	○教育相談の充実 ○異学年交流と児童会活動の充実	[アンケート結果] ○学年の枠を超えて仲良く過ごしている。【児・保・職】 ○教育相談に適切に対応し、いじめの無い学校づくりに取り組んでいる。【職】 ○児童会活動を通して自主性が育ってきている。【保】 [自己評価] 職員と児童が話し合う教育相談を定期的に行うとともに、いじめに関する児童及び保護者アンケートから問題点を見付け、児童理解に努めた。友人関係に関する児童の訴えに対して複数職員で対応するなど組織的な体制の強化にも取り組んだ。学級の枠をこえた主な取組に加え他校との交流を通してより広い人間関係を作る機会を設けた。	3	3	○学級担任だけではなく複数の職員で悩みなどに対応していることはすごく良いと思う。 ○登下校において大きな声であいさつができる児童が多く見られる。大変良いことだと思う。 ○いじめ問題について、今後も継続して指導をお願いしたい。 ○今後もいじめアンケートや教育相談を継続し、共通理解し児童と人との関係、個人の生活状況の把握に努めて頂きたい。 ○子どもたちが、お互いにいろいろな個性を持った友達を受け入れている姿がすばらしい。	3.1	3	○児童や保護者へのアンケートや教育相談を通して、児童理解と問題の早期解決に努める。 ○異学年交流や児童会活動を工夫し、自主性を伸ばす取組を行う。		
	(3) 道徳教育を充実し、思いやりの心を育てる。	○研修の充実と年間計画の作成 ○道徳の授業の充実	[アンケート結果] ○思いやりについてしっかり指導している【職】 ○友達と仲良く過ごしたり、親切にしたり、思いやりの言動ができていく。【児・保・地・職】 ○授業参観や通信を通じた道徳の授業の様子を家庭に発信している【保】 [自己評価] 道徳科の授業では、話し合い活動に力を入れた指導を行った。お互いの考えを知り、理解することが、相手の思いやりにつながった。今後は、更に授業内容を学級通信等で伝え、家庭を含め道徳教育の充実、思いやりの心の育成を図っていきたい。	4	4	○道徳の授業で相手を思いやる心ができたのか、下校後の遊びの中でケンカが全く見られなくなった。	3.7	3.7	○道徳の授業内容や思いやりの心を育てる取組について情報を発信し、家庭と一体となって心の育成を図る。 ○これまでの活動を「思いやり」の視点で見直し、思いやりのある行動を目指す。		

令和2年度 都城市立富吉小学校 学校評価報告書（体育・家庭と地域の連携）

信頼される学校

児童の個性に応じた指導をとおして、確かな学力と豊かな人間性を身に付けさせ、ふるさと富吉を愛する児童を育成し、児童・保護者・地域に信頼される学校を創造する。

4段階評価（ 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する）

重点目標	具体的目標	具体的取組	アンケート結果と自己評価 (○：成果 ▲：課題 児：児童 保：保護者 地：地域 職：職員)		自己評価		学校運営協議会委員の評価・ご意見		最終結果		改善策
			項目	全体	項目	全体	項目	全体			
体育（「たくましい体」を育成する）	(1) 運動を楽しむ機会を増やし、体力の向上を図る。	○講師の招聘による授業の改善 ○ストレッチやサーキットトレーニングの充実	[アンケート結果] ○学校は体力向上に向けた取組を積極的に行っており児童も進んで取り組んでいる。【児・保・職】 ○外でよく運動したり遊んだりしている。【児・保・職】 ○体育の授業を楽しんでおり、体力も向上している。【児・保・職】 [自己評価] 体育授業の工夫に加え、講師（中学校体育教員・高等学校体育振興教員）を招いての授業を行い、運動意欲の向上に努めた。体育の授業を生かし、昼休みに鉄棒や縄跳びをして遊ぶ姿も見られた。スポーツテストの結果からも、体力は向上傾向にあり、今後も継続して取り組んでいく。	3		○中学校の体育教師等専門職員の活用は、児童の運動に対する意欲の高まりや、体力の向上につながり素晴らしい成果につながっている。今後の取組も期待したい。 ○休み時間に外で走り回っている姿が見られ良いことだと思う。 ○運動会での児童の活発な姿、低学年の生き生きとした表情、ダンスの表現力がとてもすばらしかった。	3	3.4	○外部講師の招聘や体育研修の機会の設定し、体育授業の充実を図る。 ○体力向上プランを基に実際に応じた取組を行う。		
	(2) 自らの身体に関心をもつことで、健康意識を高める。	○各種検診の実施と個人カードの活用 ○食育指導の充実	[アンケート結果] ○生活のリズムや食生活に関する指導を行っている。【職】 ○姿勢に気をつけたり、歯磨きをがんばっている。【児】 ▲虫歯の治療状況や好き嫌いについて課題がある。【保・職】 [自己評価] 計画的な検診や計測の実施と、通信や工夫した個人結果の通知により、児童自らが身体に関する関心を持つよう手立ての工夫を行った。本年度は保健に関する行事が十分に実施できなかったが、引き続き健康意識を高める取組を続けることで改善していきたい。	3	3	○コロナ禍で家から出ることがなくなり、ゲームに没頭することが多くなったのではないかと心配している。自分の健康について関心をもって規則正しい生活の大切さについて一人一人が考えてほしい。	3	3.0	○メディアとの関わり方の実態を基に、適切な指導と家庭への啓発を行う。 ○健康への関心を高める取組を児童・保護者に紹介し、学校と家庭が一体となって健康づくりに取り組む。		
	(3) 安全教育を充実させ、危機への対応力を育てる。	○避難訓練の充実	[アンケート結果] ○地震や大雨などの時の避難や対応について理解している。【児・保】 ○安全に気をつけた登下校や遊びを行っている。【保】 [自己評価] 年間5回の避難訓練を行い、どの訓練も効果的な取組となった。非常時には予想できないことが起きるため、職員を含め臨機応変に対応できる備えが必要であり、その力はまだ十分ではない。危機対応力は、常に完璧が求められることを意識し、今後の指導に当たりたい。	3		○避難訓練はうまく出来たと子どもは満足していた。 ○年間5回の避難訓練は、非常時の行動や注意力が蓄積される事で、今後も継続的な指導が大切だと考える。 ○避難訓練は本当に大切な取組であると常々感じている。今後もぜひ力を入れていただきたい。	3	3.1	○あらゆる場面を想定した避難訓練を充実させ、危機対応力の育成に努める。		
家庭・地域との連携（ふるさと教育を充実する）	(1) 学校発信力を高め、地域における学校の理解を深める。	○ホームページの積極的な更新 ○各種通信の発行	[アンケート結果] ○学校は、子どもたちの授業や活動の様子を学校ホームページの積極的な更新や通信で適切に情報提供を行っている。【保・地】 [自己評価] 学校からの通信は定期的に発行したが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、地域への配付を行わなかった。ホームページの更新を随時行い、積極的な情報発信を行った。アクセス件数から学校理解を深める手段の一つとなったと考える。	3		○ホームページで情報発信され学校の理解ができた。 ○多忙な毎日と考えるが、学校だよりの発行を楽しみにしている。これからもぜひ頑張っていたきたい。 ○学校だよりの「やまばと」の情報は、地域の方々にも学校への関心を高めるものと思われる。今後の発信もぜひお願いしたい。	3	3.3	○ホームページの積極的な更新と地域への情報発信に努め、学校理解を深める。 ○作品応募などを通し、児童の学習成果を知らせることで、学校理解を深める。		
	(2) 地域行事に協力することで、ふるさとを愛する心を育てる。	○郷土芸能の伝承活動	[アンケート結果] ○地域行事や公民館活動に進んで参加している。【保・地】 ○子どもたちは、日頃の生活の中で地域の良さを感じている。【保】 [自己評価] 地域行事のほとんどが中止となる中、地域の方と一緒に活動する行事を通して富吉地区のよさを感じている児童が90%を超えていた。限られた活動ではあったが、児童が郷土を愛する心を育てることにつながることができたと考える。	3	3	○今年は地域行事に参加できなかったが、郷土芸能練習に対して意欲的に取り組んでいた。 ○多くの行事が中止になり残念な事が多い中、児童は学ぶ事をしっかり身につけたことはとてもすばらしい成長だと思う。 ○今年は学校と地域の行事である運動会、弥五郎どん祭り等すべてコロナ禍で中止になり残念だった、児童も郷土愛は感じていると思う。 ○郷土芸能活動は続けて欲しい。郷土愛を育てる活動として最適だと思う。学校そして指導者には敬意を表します。 ○児童数が減少している。今後、学校と地域が連携していくことが重要であり、学校を核とした地域づくりが必要と考える。	3	3.1	○地域行事開催時期にあわせて「ふるさとコーナー」への掲示や校内放送を行い、児童の地域理解を深める。 ○郷土芸能に寄せる思いを紹介する機会を設け、児童のふるさとに対する愛情を育てる。		
	(3) 地域コーディネーターとの連携を図り、教育効果を高める。	○地域コーディネーターとの連携 ○感謝の気持ちを伝える活動の実施	[アンケート結果] ○学校は地域ボランティアの積極的な活用など家庭や地域と連携を取りながら教育活動を進めている。【保・地】 ○子どもたちは、地域ボランティアの方々への感謝の気持ちを感じている。【保】 [自己評価] 一部の学習支援活動（赤ペン先生）を中止したり、規模を縮小したりしたため十分な活用には至らなかった。読み聞かせや学習支援を通じて地域の方に対する感謝の気持ちを児童全員が感じており、教育効果は高かったと考える。	3		○制限が多い中、感染対策を講じながら可能な限りのボランティアとの交流が出来て良かった。	3	3.1	○新しい生活様式に応じた支援活動の体制や方法について検討し、実践していく。 ○効果的な地域人材活用場を設定し、感謝の気持ちをもって活動を行う。		